

私のタバコにまつわる話は、甘ずっぱくも苦く切ない思い出の中にある。

今から、もう何年前になるだろうか。あれは高校の入学式が始まりだった。

「てゆーか、もうちょっとカッコええ人おらんのかなあ。選ぶ高校間違ったか。」

「キャハハッ。うちの入れる高校限られとったでな。ってか、マジええ男おらへんな。」

中学から一緒に高校に入った親友とそんな話をしていると、

「鏡見るよ。」

と、まるで周りの男の子達の声を代表するかの様なスルドイつつ込みを入れてきた男の子がいた。私はドキッとした。同じ新入生で背も高く整った顔立ちの美少年だった。「鏡見るよ」は、失礼だろ！？と思ったが、悪い事も注意出来ない日本人男性急増中のご時世に、スッパリつつ込んだその男の子に、私は秒殺で一目惚れをしてしまったのだった。

しかし、彼には中学から付き合っていたと思われる、スタイル抜群で、とてもかわいい彼女が、いつも隣にいた。

私は、高校生活の三年間、一度も彼と同じクラスにもなれず、話すキッカケも勇気もなく、ただひたすらお似合いの二人を見守るかの様に、ひっそり片思いをしていた。

そのまま卒業を控えた頃、彼と彼女が進学する大学の情報を手に入れた！！女子高生の恋愛パワーは偉大なり。私は彼らと同じ大学に進学した。一步間違えればストーカーだ。

同じコースで、時々接点を持てる様になると、彼が友人と話している内容を小耳にはさむ事も少なくありませんでした。

そして入手した、さらなる情報は、痩せている女の子が好みらしい。彼中心で生きていた私は、ダイエットを決心。痩せられる情報を集めていると、友人から、

「たばこを吸うと痩せられるらしいよ。」

と聞き、その時から、私はたばこを吸い始めたのだ。

初めは、むせたり、体に悪いというイメージから、抵抗があったのだが、痩せる為に吸い続けていると、私はみるみる痩せていった。

喜ぶ私を尻目に、彼がまた友人と話をしている内容が聞こえてきた。

「俺、たばこ吸う女だけはマジ無理。吸っとる姿もムカつくし、すげー不健康な痩せ方とかしててウザイ。」

ガビーン！！あまりのショックに、その場に居られずトイレに行った。そこで鏡に映った自分を見た時、ギクリとした。顔は青白く、歯は黄ばみ、痩せてはいるが、確かに不健康そうだった。

「何してるんだろう。やめなきゃ！！」

彼に告る勇氣もないクセに、彼好みの女になりたいという強い気持ちと、あまりの自分の醜い姿へのショックで、私は死にもの狂いでたばこ断ちをした。じっとしていると、どうしても、吸いたくなるので、バスケのサークルに入り、常に動く様にし、ガムを携帯し、吸いたくなったらガムでまぎらわせた。そうしてたばこから卒業だと思った頃、彼は妊娠した彼女と結婚し、大学をやめていってしまった…。高校の入学式から始まった4年半の片思いは、あっけなく終わりを告げた。

今想えば、私の初恋だった。それが、たばこを始め、たばこをやめる、という単純かつ長いだけの苦いもので終わったのだ。私の青春返せーって思っていたけど、やっと終止符を打てた私は、新しい恋もして、その人の子供を妊娠 出産 育児を経て、喫煙が自分自身や周囲、そして何より大切な我が子にとって、本当に悪影響でしかないと思い知り、あの時彼がたばこを吸う女が嫌いだと言ってくれて良かったなぁ、と、それだけは感謝している。まぁ、彼が痩せた女が好みと知らなければ、もともとたばこを吸う事もなかったのかもしれないが…。

何の实りもない、切ない青春時代も、今となっては良い思い出だ。

ちなみに、子供が出来て、旦那もたばこをやめ、お小遣いが浮いて喜んでい